

PWE (Paddy and Water Environment) 現状と展望
Present situation and perspective of PWE (Paddy and Water Environment)

凌 祥之* , 溝口 勝**

Yoshiyuki SHINOGI, and Masaru MIZOGUCHI

1. はじめに

PWE(Paddy and Water Environment)は2003年1月刊行以来11年以上が経過した。3年前に念願のImpact Factor(インパクトファクター,以降IFと表記)を取得し,一昨年にはその値が1.0を超える値となり,安定的な地位を確立しつつあると言っても過言ではない。

しかし,細かいところでは幾つもの問題点がある。ここでは,例年のようにPWEの現状を総括して紹介し,現時点の問題点を踏まえ,今後を展望してみたい。

2. PWEの現状

PWEはこれまで2003年の発刊以来,13巻,49冊を発刊し,既に555編の論文を掲載し,公開している(2014年末現在)。2014年度は,定期刊行として4巻と特集号2巻を発刊し,定期刊行では42編の論文を公表した。IFについては毎年7月頃に公表され,PWEは初年度(2012年)0.986の値を取り,昨年は1.247の高い値を獲得し,IF獲得以来順調に増加傾向である。IFの数値では農業工学系では12誌中7番であり,農学系では80誌中41番目と,概ね満足のいく数値であると思う。当該誌が水田を主対象としており,アジアが投稿者や閲覧者(閲覧者言えば64%がアジア太平洋地域)の中心という状況を考慮すれば,大健闘と言えるのではないだろうか。

2014年のPWEへの総投稿数は180件であり,2013年に比べて幾分投稿数は減少している(2013年は197件)。2014年度はReject率は61%と2013年度69%からは幾分低下したものの,かなり厳選したものとなっている。初回投稿から平均203日でAccept判定がでており,Rejectの判定は初回投稿から平均84日でなされている。なお,印刷については更に掲載まで期間を頂いている(Table1参照)。

Table 1 PWEへの投稿状況

Original Submission	2011			2012			2013			2014		
	Total Decisions	Frequency of Decision	Average Time to Decision	Total Decisions	Frequency of Decision	Average Time to Decision	Total Decisions	Frequency of Decision	Average Time to Decision	Total Decisions	Frequency of Decision	Average Time to Decision
Accept as is	3	3%	0.7	2	2.4%	32.0	3	1.5%	66.0	3	1.8%	135.7
Minor Revisions Needed	19	21%	76.2	19	22.9%	99.4	24	11.8%	132.8	30	18.4%	93.7
Major Revisions Needed	42	46%	87.5	37	44.6%	139.1	50	24.6%	167.0	47	28.8%	118
Reject	28	30%	75.4	25	30.1%	133.5	47	23.2%	74.4	31	19.0%	128.8
Reject without review							79	38.9%	9.4	52	31.9%	30.6
Total Editor Decisions	92	100%	78.7	83	100%	125.7	203	100%	78.7	163	100%	87.3

Paddy and Water Environment – 2014 Publisher's Report

(Source: Editorial Manager)

*九州大学, **東京大学 * Kyushu University, ** Tokyo University, キーワード; PWE, 雑誌, 編集

PWE 編集部では、2014 年からチーフマネージングエディター（CME）に韓国の Jing Yong Choi 氏を迎え、凌と 2 名体制で編集能力の強化を図った。現在は溝口 Editor-in-Chief の下、Choi 氏が単独で編集作業を行っている。

3. PWE の問題点

これまでの問題は、PWE の投稿資格や財政基盤の問題である。これまで様々な議論がなされてきたが、今後はオンライン化を含めた議論が必要と思う。財政基盤の安定化は必要であるが、より多くの高品質な投稿を確保するというのを両立させるために更なる議論が必要である。

またここ数年 PWE への投稿数が増加し、査読件数が増え、査読体制が疲弊気味である。これまで Editor の専門領域に関するデータベースの再構築と確認を行うなど、適正な Editor に編集や査読が行くような改善を行い、概ね奏功しているように思える。しかし、内容の問題で一部の Editor や査読者に多大な負担を頂くケースも増えている。査読者の拡大により、不徳の査読者も増え、著者との問題を起す事例も増えている。一方、印刷掲載まではある程度の期間を必要とし、最新の研究成果の輩出が、印刷媒体としては必ずしもできていない反省はある。

PWE の編集作業を行う Managing Editor や Editor も固定化や高齢化が進み、疲弊気味と見受けられる。若年層の参画や登用がさらに必要になり、支持基盤の拡大と活性化が望まれる。

また、なかなか各国の Managing Editor との交流が進まず、編集や査読体制の確立や更新・改善ができていない。

近年は印刷品質や査読期間の延長に関する苦情が増えており、特に査読期間の延長に関する苦情相談が増える傾向である。査読体制の活性化を含めたテコ入れが必要と思われる。

4. PWE の展望

PWE は昨年度 2 報の財政支援付の特集号を発刊した。これにより論文印刷数の増加が可能となった。引き続き財政支援の付いた特集号の確保を進めていく必要がある。更に、IF 向上のために、ゲストエディターの招へいおよびレビュー集を集めた特集号の発行などを検討している。これらの導入により、IF の持続的向上を図りたい。

一方、PWE の経営戦略としては何らかの形で購読者やサポートする国を増やしたり、責任著者に少額でも投稿料を頂戴して、持続的な経営改善を図る技術的、組織的な対応が必要であるように思う。オンライン化を含めた議論を進める時期であると考える。

同時に、より質が高い論文の収集も必要であり、積極的な広報と勧誘は常に必要である。このためには編集部として何を行わなければならないか、編集部内の意見調整と企画立案などのアクションが必要である。

5. おわりに

科学技術雑誌は多数あり、常に淘汰の危機を抱えている。経営体制が盤石な学会などは容易にオンライン化に進め、原則無料で投稿と閲覧ができる。重なる研究分野の他誌とは、ある意味で良い論文の取り合いのために競争をしなければならない。投稿も掲載も全く無料（一部）でどこまでできるか。完全オンライン化で何が問題か、などなど多種多様な問題を抱えているのが現状である。

手作りで、皆が支えると言う意識や支援が無ければ、読者だけでなく投稿者にも容易に見捨てられる。これを肝に銘じて、高い品質の持続的な発展をめざし、一助になればと尽力したい。